

# 坊がつる讃歌 1

【作詞】神尾 明正  
【補作】松本 マサ夫  
【作曲】竹山 仙史

□□□□

1. 人みな花に 酔うときも

残雪恋し 山に入り

涙を流す 山男

雪解（ゆきげ）の水に 春を知る

2. みやまきりしま 咲き誇り

山紅に 大船（たいせん）の

峰を仰ぎて 山男

花の情けを 知る者ぞ

3. 四面山なる 坊がつる

夏はキャンプの 火を囲み

夜空を仰ぐ 山男

無我を悟るは この時ぞ

# 坊がつる讃歌 2

【作詞】神尾 明正

【補作】松本 マサ夫

【作曲】竹山 仙史

4. 出湯の窓に 夜霧来て  
せせらぎに寝る 山宿に  
一夜（ひとや）を憩う 山男  
星を仰ぎて 明日を待つ

5 石楠花（しゃくなげ）谷の  
三俣（みまた）山  
花を散らしつ篠分けて  
湯沢に下る山男  
メランコリーを知るや君

6. 深山（みやま）紅葉に 初時雨  
暮雨滝（くらぞめたき）の 水音を  
佇（たたず）み聞くは 山男  
もののおわれを 知る頃ぞ

# 坊がつる讃歌 3

【作詞】神尾 明正

【補作】松本 マサ夫

【作曲】竹山 仙史

7. 町の乙女等 思いつつ  
尾根の処女雪 蹴立てつつ  
久住（くじゅう）に立つや 山男  
浩然（こうぜん）の気は 言いがたし
8. 白銀の峰 思いつつ  
今宵湯宿に 身を寄せつ  
斗志に燃ゆる 山男  
夢に九重（くじゅう）の 雪を蹴る
9. 三俣の尾根に 霧飛びびて  
平治（ひらじ）に厚き 雲は来ぬ  
峰を仰ぎて 山男  
今草原の 草に伏す

坊がつる讃歌

【作詞】神尾 明正  
【補作】松本 マサ夫  
【作曲】竹山 仙史

□□□■

1.

人みな花に

酔うときも

残雪恋し

山に入り

涙を流す 山男

雪解(ゆきげ)の水に

春を知る

坊がつる讃歌

【作詞】神尾 明正  
【補作】松本 マサ夫  
【作曲】竹山 仙史

2.

みやまきりしま

咲き誇り

山紅に

大船（たいせん）の

峰を仰ぎて 山男

花の情けを

知る者ぞ

坊がつる讃歌

【作詞】神尾 明正  
【補作】松本 マサ夫  
【作曲】竹山 仙史

3.

四面山なる

坊がつる

夏はキャンプの

火を囲み

夜空を仰ぐ 山男

無我を悟るは

この時ぞ

【作詞】神尾 明正  
【補作】松本 マサ夫  
【作曲】竹山 仙史

4.

出湯の窓に

夜霧来て

せせらびりに寝る

山宿に

一夜(ひとか)を憩う

山男

星を仰ぎて

明日を待つ

【作詞】神尾 明正

【補作】松本 マサ夫

【作曲】竹山 仙史

5

石楠花 (しゃくなげ) 谷の

三俣 (みまた) 山

花を散らしつ

篠 (しの) 分けて

湯沢に下る山男

メランコリーを

知るや君

坊がつる讃歌

【作詞】神尾 明正

【補作】松本 マサ夫

【作曲】竹山 仙史

6.

深山

(みやま)

紅葉に

初時雨

暮雨滝

(くらしぞめたき)

の

水音を

佇

(たたず)

み聞くは

山男

もののおわれを

知る頃ぞ

坊がつる讃歌

【作詞】神尾 明正  
【補作】松本 マサ夫  
【作曲】竹山 仙史

7.

町の乙女等

思いつつ

尾根の処女雪

蹴立てつつ

久住(くじゅう)に立つち

山男

浩然(こうぜん)の気は

言いがたし

坊がつる讃歌

【作詞】神尾 明正  
【補作】松本 マサ夫  
【作曲】竹山 仙史

8.

白銀の峰

思いつつ

今宵湯宿に

身を寄せつ

斗志に燃ゆる 山男

夢に九重(くじゅうじゅう)の

雪を蹴る

坊がつる讃歌

【作詞】神尾 明正  
【補作】松本 マサ夫  
【作曲】竹山 仙史

9.

三俣の尾根に

霧飛びびて

平治（ひじ）に厚き

雲は来ぬ

峰を仰ぎて 山男

今草原の 草に伏す

広島高等師範学校

山男の歌

【作詞】神尾 明正

【補作】松本 マサ夫

【作曲】竹山 仙史

1.

同じ山の

憧れを

胸に抱きで行く道は

教えの道ぞ山男

広島高師の山男

